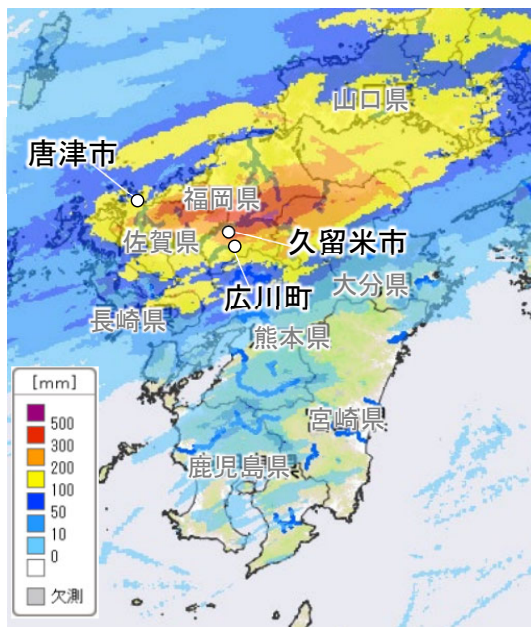


令和5年7月9日からの大雨に対する九州地方整備局の対応

- 7月9日(日)からの梅雨前線の影響により九州北部に線状降水帯が何度も発生、福岡・大分地方に大雨特別警報が発表され、各地で記録的な大雨となり、土砂崩れや浸水等の被害が発生。
(気象庁は福岡県、大分県、佐賀県などに「顕著な大雨に関する気象情報」を8回※発表(7月10日3時9分~8時29分)※九州地方整備局調べ)
- 九州各県の4県65市町村とのホットラインにより、被害地における必要な支援体制等を構築。
- 線状降水帯が発生した福岡県、佐賀県、大分県などの県庁及び11市町村にリエゾン(情報連絡員)を派遣、防災ヘリはるかぜ号による上空調査(5回)を行い、被災自治体へ映像配信、及び排水ポンプ車10台を派遣し、緊急排水作業を実施。
- 佐賀県唐津市浜玉町の土砂崩落箇所には、7月10日(月)にTEC-FORCEとTEC-DOCTORを派遣し、被災状況調査及び救命活動に伴う安全性等に関するアドバイスなど自治体への助言を実施。
- 7月18日(火)から、福岡県八女郡広川町及び久留米市に対し、被災状況調査のためTEC-FORCE11班42名を派遣。



7/9 9:00 ~ 7/10 18:00 時間累積レーダ雨量
(統一河川情報システムにより作成した図を加工)



筑後川水系における浸水被災状況調査
(はるかぜ号による浸水上空調査)



浸水箇所におけるポンプ車出動状況
(筑後川水系宝満川)



遠賀川水系彦山川における緊急災
の実施状況(福岡県田川郡落合)



唐津市の土砂崩落における被災状況調査
(TEC-FORCE・TEC-DOCTOR)



広川町の橋梁被災状況調査
(TEC-FORCE・災害復旧技術専門家)



久留米市長へTEC-FORCEの
活動内容を説明

■整備局の体制(風水害)
7月10日(月)3:50非常体制
⇒7月15日(土)22:00に
警戒体制へ移行